

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立天神小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月19日】

授業作り	重 点	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用による学習活動の充実。 ・児童一人ひとりの知的好奇心を刺激する授業づくり。 ・協働的な学びの推進。
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な言語活動の充実。(伝え合う活動、ペアトークなど) ・基礎学力の向上を目指した常時活動。(算数：計算練習 国語：音読) ・学びのユニバーサルデザインを生かした授業。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組む児童が多い ・文字の形を整えて書いたり、文字を言葉として読んだりする力を伸ばす必要がある。 ・数量と数字、読みの統合、数の合成と分解の理解、簡単なたし算やひき算の理解が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文字を書く時は、鉛筆の持ち方、姿勢、マスの中の位置を意識できるよう声かけをし、書くことに慣れさせる。 ②具体物を数えたり、ブロック操作をしたりするだけでなく、日常生活と結びつけながら分かりやすく学習を進め、数の概念や計算が身に付くよう指導する。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。 ・不意の発言で、人の話を遮ってしまうことがある。話の内容を落とさずに、最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・拗音、促音、平仮名、片仮名、漢字を正しく読んだり書いたりすることができるよう、繰り返し練習する必要がある。 ・5、10など数の構成を理解し、正確に計算する力を身に付けるとともに、文章問題を理解する力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①タブレット端末、デジタルドリル、プリントを活用し、繰り返し取り組ませる。漢字小テストを実施する。 ②机間指導や個別の声かけを毎時間実施する。 ③ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ④具体物の操作を取り入れた学習を推進する。 ⑤スピーチやペアトークなどを日常的に取り入れ、言語活動の充実を図る。 ⑥読書を奨励する。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音、促音、片仮名、漢字を正しく読んだり書いたりすることができるようにする必要がある。 ・話の内容を落とさずに、最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・基礎的な計算の仕方を確実に理解し、素早く正確に解くことができる力を付ける必要がある。 ・文章問題を正しく理解し、正しく答えることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音、促音、片仮名、既習漢字を正しく読んだり書いたりする力を身に付ける。 ・話をしている人に身体を向け、耳、目、心で話を聞けるようにする。 ・四則計算など基礎的な計算を確実に理解する。 ・文章の意味を正しく読み取る力を身に付け、問題に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> ①漢字小テストを実施する。 ②日記を書くことにより、文章を書く機会を確保し、自分の思考や感情を言葉で表現して書く力を育む。 ③ペアトークやスピーチなど、日常の言語活動の充実を図り、話し方や聞く力を身に付けさせる。 ④算数の時間に四則計算に取り組む時間を毎時間確保する。 ⑤デジタルドリル、プリントなどを活用し、学習したことの熟を図る。 ⑥音読をする機会を確保し、文章を正しく読むことができるように指導する。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字を使わずに文章を書く児童が多い。 ・話の内容を落とさずに、最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・基礎的な計算の仕方を確実に理解し、素早く正確に解くことができる力を付ける必要がある。 ・文章問題を正しく理解し、正しく答えることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字を正しく使い、文章を書く力を身に付ける。 ・話の中心に気を付けて聞く力を身に付ける。 ・四則計算など基礎的な計算を確実に理解する。 ・文章の意味を正しく読み取る力を身に付け、問題に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ②漢字小テストを実施する。習熟度に応じて再テストを行い、既習漢字の定着を図る。 ③話の内容を理解しているか確認しながら学習を進める。話をしている相手に身体、目線に向けて聞くように指導する。 ④家庭学習や朝の時間などを使い、基礎的な計算の習熟を図る。 ⑤タブレット端末で小テストを実施したり、デジタルドリルを活用したりする。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算に課題がある。 ・気付いたことや分かったことなどを書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の四則演算が確実にできるようになる。また、毎時間授業のねらいを達成できるようにする。 ・自分の考えをもつことができるようになる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①デジタルドリルを活用したり、毎時間計算練習の時間を設けたりして、計算力を身に付けることができるようになる。更に、かけ算九九の暗唱を全員できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を毎日提出している児童は7割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を毎日行うことができるようにする。 	<p>に休み時間や放課後を活用して個別指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②毎時間、問題演習の時間を設け、児童の理解度に応じた個別の課題提示をすることで、学習内容の確実な定着を図る。 ③毎時間自分の考えたこと・分かったことを記述させる。 ④対話的な学び合いを行い、友達の考えを参考にしながら自分の考えを書くことができるようにする。 ⑤毎週配布する学級だよりに時間割と共に宿題についても提示することで、家庭学習の習慣化を図り、全員が家庭学習の提出をできるようにする。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、日常の学習において、基礎的な知識・技能の習得に課題がある児童が6割程度いる。 ・国語科では、日常の学習において、漢字や言語習得についての知識の習得に課題がある児童が4割程度いる。 ・学習活動に集中して取り組むことのできる児童は学級の6割程度の印象である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、ワークテストの基礎的な知識・技能の問題の点数が80%程度の児童を5割程度にする。 ・漢字テストや言語の最終的な点数が80%程度の児童を7割程度にする。 ・学習活動を通して気付いたことや考えたことなど、授業開始時と終了時の自己の変容を認識できる児童を8割程度にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して「相手の話を聞くこと」の指導を徹底するとともに、よく聞くことのできている児童を価値付けて学級全体に広めていく。 ②知識習得のためにワークシート等を定期的に繰り返し実施する。 ③漢字と計算プリントの問題数を工夫して、児童が無理なく取り組めるように実施する。 ④タブレット端末、デジタルドリルを活用する。 ⑤児童の実態や学習内容に応じて、学習活動の方法や時間の設定を調整する。特に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して、学習活動を計画する。